広報
さめがわ

1972
9月号
No.226
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



老人をいたわり尊敬しましょう

村の総人口の中で70歳以上の老人が占める人口比率は、昭和30年に3.63%であつたものが、昭和47年には6.97%になりました。

この傾向は全国的のもので、老人対策は大きな社会問題になつています。わが村では88歳以上の老人に敬老年金を贈り、75歳以上の老人の医療費を無料化し、また広域行政圏事業の老人保養施設を村内に誘致するなどの事業を実施しております。

9月15日には433人の高令者を新しい鮫中体育館に招待し、バスで送迎するなどして盛大な敬老会を開催しました。

⊙毎月1日は交通事故ゼロ、歩行者優先の日
⊙秋の衛生、伝染病に注意しましょう
⊙9月22日～10月1日 秋の全国交通安全運動
⊙10月1日　統一祭礼
⊙10月3日　鮫川村消防の日（消防検閲）
⊙第3日曜日は「家庭の日」です

今月の人口

（9月1日現在）

人口	6,337	(+6)
男	3,188	(−1)
女	3,149	(+7)
世帯	1,196	(−1)

鮫川村のシンボルマーク決る

鮫川村を象徴する村章を広く一般から募集していましたが、八月三一日の〆切日までに、村内外から一一三点の応募がありました。

図案は立派なものばかりで、各審査員も選考に苦労されました。先ず第一次選考は村章選定専門委員会が優秀作品六点を選び、その中らか審査員会が慎重な審査のうえ入選一点、佳作二点を選定しました。

入選
福島市北五老内一ノ三六
中井　恒峯（FTV勤務）

佳作（二点）
鮫川村大字赤坂中野字新宿
高木　正則（商業）
双葉郡浪江町大字藤橋四八ノ三
三瓶　学（公務員）

入選作品の図案は追つて発表します。なお多数力作を応募された方々及び村章の選定にご協力頂きました方々に厚くお礼を申し上げます。

秋の農繁期における火災予防

農繁期は家の中が留守がちになりますから火の始末を完全にし、また空気が乾燥し、強い風が吹く日も多くなるので屋外の燃えやすいものを整理するとともに、屋外での火の取り扱いには十分注意して下さい。子供の火遊びによる火災も毎年非常に多いので、子供の遊びに気を付けて火遊びをさせないようにし、火災のない明るい生活を築きましょう。

!!火事と救急車は「一一九番」

（白河消防署鮫川出張所）



おめでた

八月
田野上　下重しずい　父　正
遠ケ竜　森　薫　父　義美
青生野　吉成　功　〃　義郎
真坂　金沢　勝敏　〃　一四
遠ケ竜　須藤　竜一　〃　勝代
青生野　中島　武夫　〃　文雄

おくやみ

八月
菅田　関根　春雄　9才　美明
大塩　金沢　孝男　34才　一

世帯主

身体障害者の方々へ

身体障害者のバス割引の取扱いが変りました。

今まで民間会社のバスに乗る場合、役場から割引券（青色）の交付を受けておりましたが、この割引券が不用になりました。

福島交通・会津乗合・常磐交通のバスに乗るときは必ず障害者手帳を提示して下さい

◉国鉄バスは従来どおり割引券が必要です。

お知らせの広み (17)

開発構想に入る阿武隈山系

村長　石田卯子八

阿武隈山系の開発については、県庁内に阿武隈山系地域農業開発調査室が設置され、国の機関としては阿武隈地域総合開発調査事務所が福島市内に設置され、昭和四四年度から基礎調査が進められてきました。

この調査は三年間継続され、昭和四六年度をもつて基礎的な事項の調査を終り、今明年の二年間は開発構想の策定調査を行うことになつております。

しかし総面積四一六千ヘクタール、三四市町村に及ぶ膨大なこの地域の開発を同時一斉着工ということは不可能であり、国及び県は今年度に全地域から四ケ所の重点地区を選び、この拠点から住民の意向調査などを行ない、開発構想策定に入ることになりました。

わが村も阿武隈南部の重点地区に入り、久慈川東部地域として、塙、矢祭、棚倉の一部とともに、この調査が行われる予定であります。

開発は従来やつてきた協業団体や、市町村の事業ではなく、国営でやつて貰うことを願つております。

それには一千ヘクタール程の用地の協力参加を必要とすると思いますが、わが村の開発可能地は三一六六ヘクタールと計算されており、既設牧野の再開発、混牧林、共有民地、国有林活用、民有未利用林地などを含めると、可能性に希望がもてると思います。

事業が国営で施行されることになれば補助金も七五―八〇%が見込まれ、先づ国が開発して町村または協業団体が経営する建売り方式が採用されることになりましょうから、開発についての資金労力面の苦労は少なくなります。農業開発の方向づけは、大規模畜産基地の設定ということになり肉用牛が選ばれるかと思いますが、この地域の複合型農業を全然排除するのではなく、酪農、こんにやく、まゆ、高原やさい等も生かすべきであります。

阿武隈山系開発のそもそもの構想は、県下に先がけてわが村から提起したものでもあり、このたび重点地区に選ばれ先発工区となる可能性も出たことでありますから、皆様のご理解とご協力により、総参加の実をあげることができますようお願いする次第であります。

先づ私たちは、阿武隈山系の開発にご理解をいただくことを期待したいのであります。

秋の全国交通安全運動

運転車は歩行者の・歩行者は運転車の側に立つて事故の絶滅を!!

交通事故から こどもと老人を守ろう

秋の全国交通安全運動は九月二二日から一〇月一日まで一〇日間実施されます。

重点目標として次の二点が定められ、交通事故防止を強く推進することになりました。

一、スクールゾーンの定着化ならびに設定の拡大化

本村では今年の春に鮫川小学校、鮫川保育所を中心とした、モデルスクールゾーンを設定して、立看板や標識を立て、通学通園児の保護を図つて来ました。

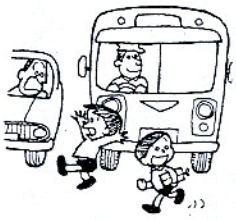
続いて八月二六日からは、棚倉警察署長の権限による、速度制限と駐車禁止の規制が実施され、歩行者の保護と交通の円滑化が図られました。

今後はお互の協力によりその定着化を図ろうとするものです。

二、交通安全指導の強化

交通事故防止は、各人の交通安全についての意識を高めることが先決であり、運転者のみでなく、子供、主婦、老人等についても交通安全意識の高揚を推進しようとするものです。

村では、交通安全協会、交通安全母の会等と協力し交通法令講習会、交通安全パレード、センターライン引き等を行ない、交通安全運動を推進する計画です。



〝スローガン〟

こどもと老人を

交通事故から守ろう!

—交通ルールを守りましょう—

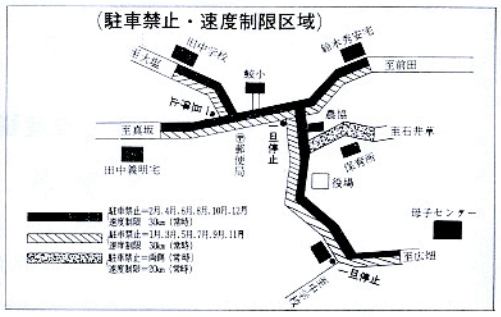
八月二六日から交通規制

八月二六日から、赤坂中野字新宿及び道少田地内の県道、村道の一部が駐車禁止と速度制限が実施されています。

次の図のとおり、県道は隔月片側駐車禁止（終日）、速度制限は常時三〇㎞で、保育所に通じる村道は両側駐車禁止、速度制限は二〇㎞となつています。

なお一旦停止は郵便局前附近、橋本政一郎宅前及び中学校に通じる壇ノ岡橋入口の三ヶ所となつていますので、交通違反にならないようお互に注意し合つて下さい。





歌会始め詠進要領 お題「子ども」と決定

昭和四八年歌会始詠進歌の詠進要領が官内庁から発表になりました。

要領（抜すい）

一、お題「子ども」

「子ども」の文字が歌句の中になくとも、子どもを表現する言葉がよみこまれていればよい。

二、詠進要領

㈠一人一首とし、未発表のもの

㈡用紙は半紙（習字用半紙）とし、毛筆で自書すること。

㈢書式は、半紙を横に二つ折りにして、右半面に題と歌、左半面に住所、氏名（ふりがな）生年月日及び職業（具体的）を書くこと。

三、詠進期間

本年九月一日から十月十一日まで

四、宛先

一〇〇東京都千代田区千代田一番一号、官内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書き添えて下さい。

子ども

（折り目）

住所　ふりがな

氏名

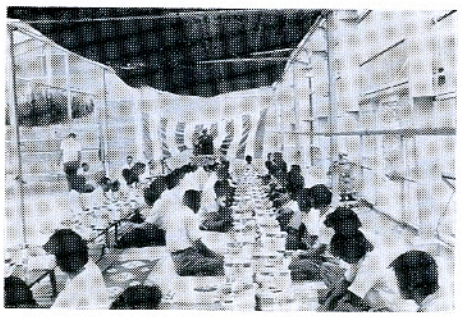
生年月日

職業

葉たばこ乾燥調理センター完成

葉たばこによる自立農家の育成と、経営改善産地の拡大を目ざし、大字西山岩野草と鍛治平地内に、総事業費六、二五八、〇〇〇円で、乾燥調理センター二八八㎡の建物二棟、乾燥調理機械一式が完成しました。

この施設は、岩野草葉たばこ生産近代化事業施設利用組合（組合長根本伝・組合員一三名）が共同利用によつて省力化と生産の合理化を図るもので、管内からモデル施設として今後の活用と運営に期待をかけられています。



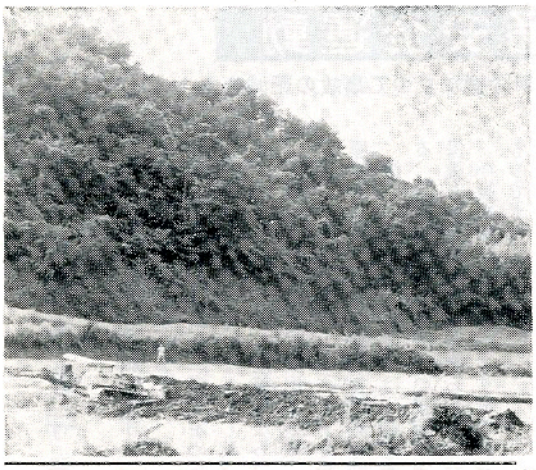
岩野草葉たばこ乾燥調理センターで盛大に行われた落成式風景

老人保養センター建設事業

用地造成初まる

昭和四七年度完成を目指す!!

◇…白河地方広域市町村圏整備組合が…◇
◇…昭和四十七年度事業として、鮫川…◇
◇…村内に建設する老人保養センター…◇
◇…の敷地造成工事が初まりました。…◇



場所は湯の田温泉の近くで、休耕田を埋め立てて造成することになり、面積は約三、六〇〇平方メートル予定されています。建物の建坪は約一四〇坪、平屋建で、設備の内容はステージ付大広間、客室、食堂、事務室、玄関、便所その他となつており、特に温泉を利用した大浴室が計画されています。



西山老人クラブ
社会奉仕にハツスル



西山老人クラブでは、役員十六名で、九月十五日恒例により西山小学校校庭の花壇の手入や、土手の草刈りなどの奉仕作業に、一日楽しい汗を流しました。

また老人クラブ全員の手作りによる竹箒五〇本と雑布二五〇枚を、西山小学校に贈り、大変感謝されております。

◇　◇　◇

渡瀬長寿会
—よい子に雑布贈る

渡瀬長寿会の女子会員二十三名で作つた雑布七十五枚を渡瀬小学校に寄附し、児童から大変感謝されています。

今月の納税

—固定資産税第2期分です—

納期限　9月25日

おくれず、わすれず、
納期内に納めましょう。

税コーナー

退職金と税金
☆他の所得と分けて計算☆

退職金は、永年の勤務に対する慰労金でもあり、老後の生活保障のための最後の収入でもあるため退職金に対する税金は、給料などに対する税金に比べて軽い負担ですむよう、ほかの所得と分けて計算し、源泉徴収することになっています。

税金の計算方法は、退職金の収入金額から、その人の勤務年数に応じて計算した退職所得控除額を差し引き、その残額の二分の一が課税の対象となります。

また、住民税も同様に計算されます。

（白河税務署）



家畜盗難事件の捜査協力について

棚倉警察署

昨年から今年にかけて、県下に農家の大切な牛をねらう悪質な盗難事件が発生しています。

当署管内でも昨年九月には矢祭町に一件、今年の三月には鮫川村で二件発生しております。そのほか昨年十月から今年三月までの間に、いわき市、双葉郡などでも発生しています。

それで県内の各警察署が一体となり捜査をしていますが、犯人はまだわかつていません。また有力容疑者も浮んでいません。

みなさんの家庭でもこのような被害にかからないよう十分注意するとともに、この事件に関して犯人や、運んだ車などおわかりでしたらすぐ警察署にお知らせ下さるよう協力方お願いします。

□□□□□□□□□□盛況だつた盆踊大会

八月十六日に仮装盆踊大会が開かれ、踊る人も見る人も、なつかしいタイコの音に合せたのしい夏の一夜を過ごしました。

これはリバイバルブームを反映して、商工業の発展を図ろうと鮫川村商工会青年部が主宰したものです。

この夜は若い者からお年寄りまで約五〇〇名の参加者があり、仮装も木枯文次郎やチンドン屋などと趣向をこらしたものが多く、たくさんの観衆を湧かせました。



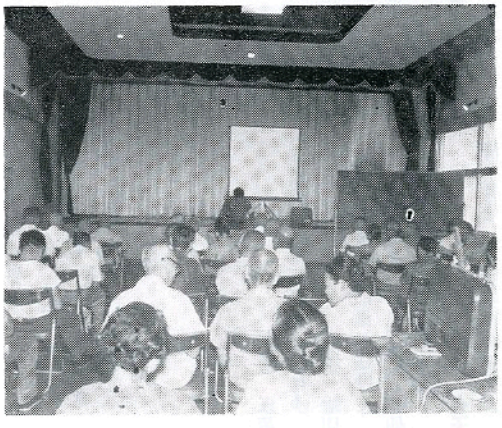




成人病予防には

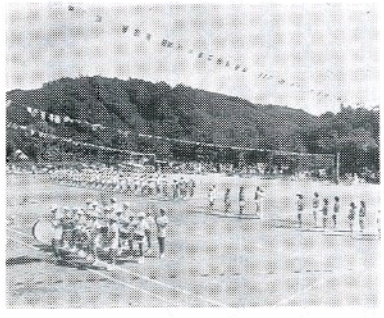


交通の安全はまづ歩行者からと社会学級（60才以上）の皆さんが熱心に交通法令の勉強会を開きました。



鮫小に鼓笛隊誕生!!

鮫小では鼓笛隊を編成し九月十一日の秋季運動会に父兄に披露しました。なお鼓笛隊の楽器一式は本村薄ケ久保出身の高木伝さんから寄付れたものです。



特別弔慰金請求について

戦傷病者戦没者遺族援護法の一部改正により、特別弔慰金受給要件の範囲が拡大されました。

次に該当する方は、住民課福祉年金係で請求手続をして下さい。

一、四〇、四、一から四七、三、三一までの間に、公務扶助料、遺族年金の受給権を有するものがいなくなつた場合。

二、四〇、四、一以後裁定になつた、公務扶助料、遺族年金を受ける権利を有しない弔慰金受給権者

なお今回の援護法等の改正で各種年金、給付金、一時金の額の引上げが行われました。

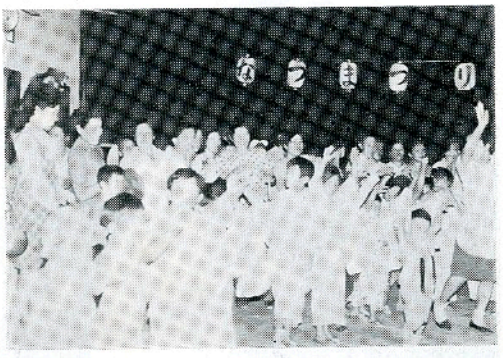
交通安全のため寄付

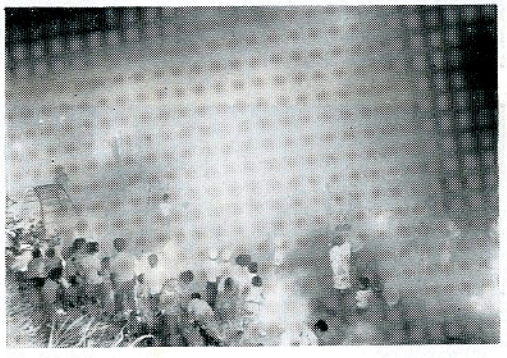
仮装盆踊大会で特賞を獲得した新宿のゆざ美容室では賞金（副賞）の二、〇〇〇円を交通安全のために役立てゝ下さいと、安全協会鮫川分会に寄附されました。



恒例の夏まつり花火大会

保育所のこどもたちは、ユカタ姿で、遊戯や花火大会など たのしい夏の夜の ひとときを すごしました。





鮫川史（34）

鮫川の縄文式文化時代

国島義広

縄文文化時代とは実に古い事で約数十万年も遡るのである。

先づ縄文式文化時代と弥生式文化時代を通称先史民族時代と称するのである。

縄文式とは約三千年以前、弥生式文化とは約千五百年以前を称するのである。縄文とは土器紋様に縄目を出してあるので縄文と称し弥生式とは縄文があるが焼窯によりて焼くようになつたので総して赤色を呈している。明治十七年始めて東京都文教区弥生町から出土したので弥生式と呼ぶようになつたのである。

此の先史民族時代は文字の無い時代であるから勿論何の記録も出来ません。その頃すでに此の鮫川の地に人間が如何にして生存して居たかと云う事を誰もが不思議に考えることでありましょう。前号にも述べたが、その頃はまだ農耕とゆう事がなく、自然物を食べて生活していたのである。

例えば海や川からは魚介水藻、山野からは草木の実や山菜草木の根、獣等を捕えて常食とした。その場に食物が無くなれば次の地に移ると云うような生活をしていたのである。すでに此の時代にも鮫川の地に人が住んで居たのであるその証拠として各所より出土する先史民族の遺物により証明されるのであ。一昨年金沢館長と全村に亘り調査した結果、前号所載の如き全国にも珍らしい遺跡が数々発見された。

なお数年前壇ケ岡から偶然発掘により縄文中期の遺跡が発見されたが、村営運動場の造成を急ぐため、惜しむべき貴重な遺跡も、完全な調査もなく破壊されたのはかいすがいすも実に遺憾であつた。

筆者はある程度まで調査した結果縄文中期である事だけは確認された。

（つづく）

奥の砂女川八月作品

短歌



俄雨止みて静まる庭の池鯉は背鰭を現はし泳よぐ
ひつそりと机六つを並べ居て分校の子らはむつみて学ぶ
円井　モト
実の入りを待ちきれずして孫達はどの唐黍も口あけて在り
高値する和牛しこむの意がきまり嫁のとり来し乳茸汁吸ふ
関根　一好
浅間山ふもとに続く岩黒き鬼押出しの上白き蝶舞う
標高二千志賀高原の終る時から松青き軽井沢見ゆ
蛭田　七星
群れ咲けるへくそかずらを薙ぎてゆくつぶらな花を時に惜しみつ
逝く夏の夜半をそぼふる雨のひまみゝず鳴く音に夜は更けにけり
杉山　忠男

俳句

苔むしてちさき墓石よ幾星霜の物語りあり傾きかけつ
百合の香と線香の匂ひ交さする初秋の丘の旧盆よ親し
水野　風斉
いんげんのつるのびしげし朝々のみのりのさやもふさふさとつき
激動の今日のひと日もつつがなく湯舟ゆたかに全身をいたわる
中川西好幸

山もひでりの径置く門火昏く立て
蛭田　七星
夏蚕飼う峡の戸毎の漏れ合羽
吉田　羊羊
薔薇めぐる古城の石や苔青し
金沢　暁舟
糸つけて蟬飛ばす子の汗凝らす
山本　朗史

屋敷荒れ赤鬼灯のゆれて見ゆ
高坂　蚯切
俄雨恩師もともに歯の抜けて
蛭田　牧仙
憂き妻の窓たそがれて吊葱
星　貞子
待つ間なし真夏の箸に骨拾ふ
国島　五黄

法燈に蛾の集まれば鐘を打つ
有賀奈々子
夏の月行く先告げず歩きだす
金沢　斗暁
目に鼻に蚋がとびこみ鎌を研ぐ
菊地　弘嶽